

3-5 「コレカラプロジェクト」のすすめ方に関する課題

(1) 初期段階から市民が参加できる段階的な計画づくりを推進する

現在、様々な分野で市民参加が行われていますが、参加する市民が、いつ何について意見を言った方がいいのか分からなかったり、計画の後期で初めて意見を求められたりするために、混乱をきたすケースがあります。

議論の後戻りや混乱が起きないようにするためには、計画の初期段階から個々のニーズに合わせた様々な市民参加の機会を設けると共に、段階を区切り、テーマをしぼって検討を進める必要があります。また、市民が計画づくりに参加する際には、すすめ方や市民の関わり方を予め明確にし、市民と行政とが互いに情報を共有することが重要です。



●市民意見交換会(多治見市)

(2) 市民の意見を把握して計画や事業に反映する

今回の河川整備計画案づくりでは、市民の声が反映された計画づくりを進めるために、オープンハウスや市民意見交換会などを開催し、きめ細かに市民の意見を聴きました。また聴くだけでなく、どんな意見が寄せられ、それがどう計画に反映されたかを広く市民に投げ返していく必要もあります。

その際、上流と下流、右岸と左岸などで利害が対立する場合も考えられますが、賛成、反対といった議論ではなく、お互いに納得できる解決策を探るために、なぜそう考えるのかといった関心まで掘り下げて意見を聴くことが重要になります。



●オープンハウス(名古屋市西区)



●車座集会(西枇杷島町)



●車座集会(名古屋市西区)

(3) 行政間で連携して効果的で効率的な計画づくりや事業推進を行う

河川の計画は国や県、市町村など様々な行政の仕事に関連しています。これからの川づくりは、今まで以上に行政間で密に連絡をとり、情報を共有しながら、計画づくりや事業を効果的で効率的に進めていくことが重要です。

(4) 流域住民主体の活動や市民と行政との協働活動を促進する

市民の方々が中心になって、河川環境を良くしていこうとする取組みが活発になってきています。それらの活動をさらに活性化するためには、行政による支援や市民と行政とが一緒になって活動する場をつくる必要があります。



●川と親しむ子供たち(土岐川)